

# GUNMA ぐんま の中心で、 エコノミクス

昨年、『アットホーム・ダッド』というドラマがテレビで放映されていました。ご覧になった方も多いと思いますが、会社のリストラにあい専業主「夫」となった主人公の悪戦苦闘ぶりを描いたドラマです。もちろん、生計を立てるためには、夫の代わりに妻が勤めに出る必要があります。このように妻が勤めに出て、夫が家事を担当するような家庭は、近年、急速に増えているそうです。その理由は様々だと思えますが、以下では「分業」という観点から、経済学的に考えてみたいと思います。

## 「専業主夫」と 柳瀬明彦 「グローバルゼーション」の 奇妙？な関係

いま、家事労働と会社勤めをするという2つのタイプのみの労働を考え、それぞれ「家事」「会社」と呼ぶことにします。そして、これら2種類の労働に関する、夫と妻の生産性は表1のように示されるとします。つまり、ある一定量の家事を済ませるのに、妻は3時間かかる一方、夫は1時間で済ませることができ、また会社の仕事に関しては、夫は3時間かかる仕事を妻がやるうとしたら4時間半かかってしまうと想定します。ドラマの主人公とは違い、夫は会社の仕事も家事もバリバリこなすスーパーマンですが、これを経済学では「夫は会社の仕事と家事の両方において絶対優位にある」といいます。

2つの仕事を合わせて、できる限りたくさん量の仕事を達成することが、この夫婦にとって望ましいとします。2人とも9時間以上は働かないとして、この夫婦はどうすれば目的を達成できるでしょうか。紙幅の関係で詳しい証明は省略しますが、答えはズバリ、「夫が家事を行い、妻が会社に行く」というものです。これは、次のように考えれば理解できると思います。夫が1時間で済ませる家事の量、妻が1時間で済ませる会社の仕事を、それぞれ「1単位」と呼ぶことにすると、「夫が家事、妻が会社」という選択によって、9単位の家事と2単位の会社の仕事が達成されます。では、逆に「夫が会社、妻が家事」という選択はどうでしょうか。この場合、3単位の家事と3単位の会社の仕事が達成されますが、仕事量の合計は6単位となり、これは「夫が家事、妻が会社」という選択をした場合に得られる11単位の仕事量に比べて約半分しかありません。なお、別の選択肢として、「絶対優位を持つ

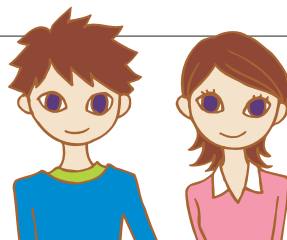
夫が両方の仕事をを行い、妻は何もしない」というのも考えられるかもしれませんが。しかし、この場合、妻の労働力が無駄になっていますので、達成できる仕事量はさらに少なくなりそうです。

夫婦がともに働き、しかも2つの仕事を適切に分けて行うことによって、最大の利益が得られるのです。この結果を、経済学では「分業の利益」と呼びます。ここで重要なのが、「2つの仕事を適切に分けて行う」という点です。既に示したように、「夫が家事、妻が会社」ではなく、「夫が会社、妻が家事」を選択してしまうと、分業の利益は半減してしまいます。その理由は、次のように説明されます。表1において、「家事」については同じ仕事を夫は妻の3倍のスピードでこなせますが、「会社」については夫の仕事のスピードは妻の1.5倍であると仮定しました。つまり、夫は妻よりも「家事」と「会社」の両方の仕事において優れていますが、その優れている度合いは、家事の方が会社よりも大きいのです。逆に、妻は「家事」と「会社」の両方も劣っているのですが、その度合いは「会社」の方が「家事」よりも小さいのです。このことを、「夫は家事に、妻は会社に比較優位を持つ」といいます。この比較優位パターンに従って、夫と妻がそれぞれ相対的に得意な分野に労働を集中して投入すれば、分業の利益は最大となります。これを「比較優位の原理」といいます。

実はこの比較優位の原理、国際経済学で最も重要な考え方の一つです。「夫」「妻」を「先進国」「途上国」、「家事」「会社」を「ハイテク産業」「農業」とそれぞれ読み替えれば、それは国際分業の利益を示すことになります。つまり、「各国が比較優位の原理に従って国際分業を行い、自由に取引を行えば、多大な利益が得ら

表1

	家事	会社
夫	1時間	3時間
妻	3時間	4.5時間



れる」という命題です。今から200年近く前にイギリスの経済学者デビッド・リカードによって示されたこの結果は、この半世紀ほどで急速に進展した「経済のグローバル化」、すなわち国境を越えた経済活動の拡大や、貿易や投資を通じた国際的な経済取引の自由化の推進に対する理論的裏づけとなっています。

しかし、一方でグローバル化に対する反対論もしばしば聞かれます。先進国と発展途上国との間の経済格差、限りある資源の枯渇、地球環境の悪化などがその理由として挙げられます。国際経済学は、こうしたグローバル化の「光」と「影」を研究する分野であるといっているかもしれませんが、一人でも多くの方が興味を持たれることを期待します。



AKIHIKO YANASE  
 1971年横浜生まれ。慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。東北大学大学院経済学研究科助手などを経て、現在、高崎経済大学経済学部助教授。専門は国際経済学、公共経済学、環境経済学。  
<http://www1.tcue.ac.jp/home1/yanase/>